

に達したりしも、内凡そ十分の四は、痘疫の爲めに掃ひ去られ、三分は千七百六十年の兵亂に死し、二分は露領に遁走し、清兵の北路戡定後は、僅に十分一の殘存者ありしに過ぎずして、北路一帶の廣漠なる沃野は、殆んど空虛に歸するに至れり。是に於て清國は、屯田拓殖の策を建て、步騎兵及各種人民を移住せしめたる時、漢人種は支那本部より步騎兵として、將た農工商民として、伊犁其の他の都城に移住せり今日南北兩路に在る漢人は、全部即ち是なり。

#### 四 滿人

滿人種は、亞細亞系統の西伯利種族に屬する、所謂通古斯族にして、通常之を滿洲マンジュリヤ人と稱す。元と蒙古族より岐れ、後他種族と混血變化したるものの如し。彼の東胡、靺鞨、契丹、女真と稱したるは、皆同種族の異名なりとす。言語は漆着語(我日本の如く語句の間に「テニヲハ」を挿むもの)を用ゐ、宗教は往時「シャーマン」教を奉じたり。彼等は古より「ブリヤーツ」種族の住する東北地方を占有し、北は殆んど北氷洋に及び東はアムール地方の東にまで分布せるも、主部は滿洲吉林附近に據れり。彼等一朝勢力を得るや、支那本部に侵入し、漢人を征服して、遂に現清帝國を建設するに